

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学）

事業者名：社会福祉法人にんじんの会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容	
1 職務の理解 6 時間		通学	通信	合計	1 職務の理解 (1) 講義のみ (2) 講義及び演習、視聴覚教材の活用、現場職員の体験談を聞く、現場見学等を行い働く現場のイメージをつかんで発表する。
	(1) 多様なサービスの理解	3		3	
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		3	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間		通学	通信	合計	2 介護における尊厳の保持・自立支援 (1) 講義のみ (2) 講義及び演習、自立、自律支援をすること、介護予防、残存機能の活用をテーマに事例提示し、グループで話し合い、発表する。
	(1) 人権と尊厳を支える介護	6		6	
	(2) 自立に向けた介護	3		3	
3 介護の基本 6 時間		通学	通信	合計	3 介護の基本 (1) 講義及び演習、Aさん（要支援2、認知症、片麻痺、座位保持不可）を中心に、介護に関わる専門職、多職種との連携、チームケアについて各自介護関係図を作る。 (2) 講義のみ (3) 講義及び演習、事故予防、安全対策、感染予防など介護における安全確保を行う際考えられることをグループで話し合い、発表する。
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1		1	
	(2) 介護職の職業倫理	1		1	
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	3		3	

(4) 介護職の安全	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解	6 時間
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解	6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	

(4) 同左	1		1	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	3			3
(2) 同左	3			3
(3) 同左	3			3
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	3			3
(2) 同左	3			3
6 老化の理解	6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	3			3
(2) 同左	3			3
7 認知症の理解	6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	1.5			1.5
(2) 同左	1.5			1.5
(3) 同左	1.5			1.5

(4) 講義のみ
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 講義及び演習、介護保険の申請から利用までのフローチャートを各自で作成する。
(2) 講義及び演習、障害者総合支援制度の基本的理解をするために、介護給付、訓練等給付の申請から支給決定までのフローチャートを各自で作成する。
(3) 講義のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 講義及び演習、失語、聴覚、視覚障害者や認知症に応じた対応方法を理解する為、言語的、非言語的コミュニケーションを体験する。
(2) 講義のみ
6 老化の理解
(1) 講義及び演習、例題テーマを設定しそのテーマに基づいてグループで話し合い、発表する。(例:退職による社会的立場の喪失感)
(2) 講義のみ
7 認知症の理解
(1) 講義及び演習、認知症の利用者の気持ちを各自考え、発表する。
(2) 講義及び演習、認知症の原因疾患とその病態を各自整理し、まとめる。
(3) 講義のみ

(4) 家族への支援

(4) 同左	1.5		1.5
--------	-----	--	-----

(4) 講義のみ

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	1		1
(2) 同左	1		1
(3) 同左	1		1
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間	
ア 基本知識の学習		11 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	3		3
(2) 同左	3		3
(3) 同左	5		5
イ 生活支援技術の講義・演習		52 時間	
	通学	通信	合計
(4) 同左	5		5
(5) 同左	4		4
(6) 同左	4		4
(7) 同左	13		13
(8) 同左	8		8

8 障害の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 講義及び演習、家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて各自考えて発表する。	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習、老化、障害を受け入れる過程での感情、生きる意欲の形成、阻害要因をテーマに事例を提示し、グループで話し合い、発表をする。	
(3) 講義及び演習、人体の働きや運動動作について学び、バイタルチェックの方法やボディメカニクスの介護への活用について、実技演習をする。	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習 Aさん(要支援2、認知症、片麻痺、座位保持不可)を想定し、Aさんと一緒に行う清掃、洗濯、調理についてグループ討議する。	
(5) 講義のみ	
(6) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた更衣、整容の方法を考えて実技演習をする。	
(7) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた移動・移乗の方法を考えて実技演習をする。	
(8) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた食事の方法を考えて実技演習をする。	

(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習)* (50~55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4 時間	
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム 時間	

(9) 同左	8		8
(10) 同左	4		4
(11) 同左	3		3
(12) 同左	3		3
(実習)*	0 時間		
ウ 生活支援技術演習 12 時間			
	通学	通信	合計
(13) 同左	6		6
(14) 同左	6		6
10 振り返り 4 時間			
	通学	通信	合計
(1) 同左	3		3
(2) 同左	1		1

(9) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた入浴・清潔保持の方法を考えて実技演習をする。
(10) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた排泄の方法を考えて実技演習をする。
(11) 講義及び演習、Aさん(同上)の安眠の工夫、環境整備について考えて実技演習をする。
(12) 講義及び演習、終末期介護について、介護者や家族の心構えや支え方、受容について各自考え、発表する。
(実習)*
ウ 生活支援技術演習
(13) 講義及び演習、事例(ペーパーシミュレーション)をもとに、グループで基本的情報の整理、アセスメント、介護計画(目標・内容)の立案を作成する。
(14) 講義及び演習、Aさん(同上)の事例以外に2つの事例を提示して、一連の生活支援を提供する際の視点、アセスメント、自立に向けた介護過程の展開方法をグループで実技演習する。
10 振り返り
(1) 講義及び演習、研修や実習を通して学んだことを振り返り、各自発表する。発表後、根拠に基づく介護についての要点を受講生が各自表にまとめる。
(2) 講義のみ

計 (130 時間)

計 (130 時間)

※「9 こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。